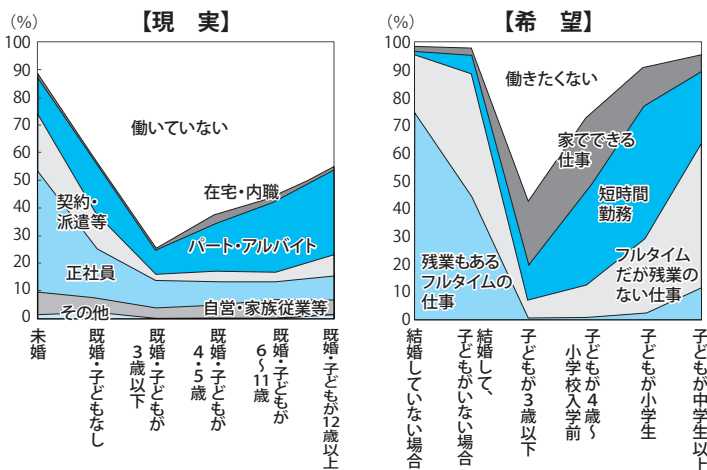


セカンドチャンスのある社会へ

「セカンドチャンスをもっと増やそう」というのが私のもう一つの主張です。

【図2】をみると、働きたくない女性は子どもが中学生くらいになると非常に少なくなっている。大半の女性が「家でできる仕事」「短時間勤務が可能なお仕事」「残業がない限定正社員のような働き方」を望んでいるものの、現実には希望どおりに働けず、「パート・アルバイト」が中心となっていて、しかも「正社員」は減ったまま増えていない。これ

【図2】 女性のライフステージに応じた働き方の希望と現実 (n=3100)



引用：内閣府「平成23年男女共同参画白書」
 「自営・家族従業等」には、「自ら起業・自営業」、「自営の家族従業者」を含む。
 「契約・派遣等」には、「有期契約社員、嘱託社員」、「派遣社員」を含む。

● 講演会参加者のアンケートより ●

▶ 女性が初職を離れる理由として多いのが「仕事への不満・行き詰まり」だったというのを、はじめて知った。面白かった。

▶ とても興味深いテーマでした。私自身短大卒業後、大手企業に就職し、結婚と同時に、あたり前のように退職しました。そのときは、働くことの面白さをひとつも分からずにいたように思います。その後家計のために再び社会に出て、非正規ですが仕事をする中で、自分自身のキャリアを積んでいきたいと強く思うようになりました。セカンドチャンスのある社会。とても大事だと思いました。

▶ 論理的に現状と課題をお話いただき、有意義でした。先生のワーク・ライフ・バランスの考え方には目からウロコでした。「仕事と生活の調和」を考えると、自己をコントロールするゆとりを持った生活を心がけたいと思いました。

女性差別をなくし、職場における均等待遇を確立する▼セカンドチャンス社会を形成する——という3つの改革を進める必要があるでしょう。

日本社会は今、静かな革命の最中であり、男性の意識が変わるといふ意味では、とても大きな時代の転換点の真只中にあるのです。そこで必要なのは、価値観の変化を認識し、多様性を認めること。そうすることで、女性がダブルアイデンティティを

はつまり、日本の会社は働き方が画一的でセカンドチャンスがないというところを示唆しています。今進められている「女性の活用は、単に女性がキャリアを持って辞めず、働き続けられるよう支援する政策ですが、辞めてもまた働けるようになる方向にシフトしたほうが、多くの人にとってより有益です。そのためにも、▼同一価値労働・同一賃金」の原則を守る▼社会における

男女雇用機会均等法が施行された当初はあまり女性の働き方に影響を及ぼさなかったと思われたのですが、「結婚を遅らせる」「出産せずにキャリアを優先する」という変化が現れ、働く女性という側面からはプラスになりました。が、現実には結婚してキャリアも子どもも」と望む女性が多いにもかかわらず、それが実現できていないという問題が出てきました。

大切なのは、価値観の変化を認めること

持ち、セカンドチャンスのある社会につながるようになっていこう。

これからの社会は、個人が自分の生涯を▼仕事▼健康▼自己研さんのための学習や趣味▼友人や家族▼地域・社会貢献活動——の大きく5つの領域にわたって、自分なりに配分し、その人なりの人生をデザインしていく時代になるでしょう。それぞれの領域の優先順位は人生の各地点によって変わるでしょうが、大切なのはどれも個人のなかにしっかりと入っていること。そしてそのバランスを保つには、どの領域でも限界まで頑張るのではなく、自分にとってちょうどよい基準を持つこと、つまり「足るを知る」感覚を持つことが大切です。

『女性はなぜ活躍できないのか』
 著者：大沢真知子
 出版：東洋経済新報社



『なぜ女性は仕事を辞めるのか 5155人の軌跡から読み解く』
 著者：大沢真知子・岩田正美
 編集：日本女子大学現代女性キャリア研究所
 出版：青弓社

* この特集は、今年6月27日に行われた講演を基に編集・加筆したものです。